

見上げる夜空に、真円の月 耳に響く、特別な声と調べ

あなたは満月の夜がいつか知っていますか？
京都にも、年に13度やってくる満月の夜、
新たに千年の伝統が始まります。
月を感じ、宇宙の摂理を感じ、
自然のリズムを取り戻すために、
京都で始まる新しい祭り。
満月の夜ごとに
京都の寺社・仏閣で繰り広げられる、
ライブパフォーマンス。
それが「京都、満月祭り」。

第1回「ビギン」
2003年5月16日(金) @仁和寺



主催 関西テレビ・京都チャンネル
(スカイパーフェクTV1 726ch)
開場 午後6時 開演 午後7時 放送開始 午後7時
指定席 5250円 チケット問合せ 075-213-7727

京都のスキマ情報ガイドの決定版！
敷居の高こおない
祇園を歩かばるなら
今どすえい

京都ブランド vol.2
最新ルート副読本
歩きやすい
祇園

<http://www.m21.or.jp/fame/>
ホームページでも御注文承ります。



私的世界オーガナイザー

KYOTIAN I.D.

erica

キョーティアンアイディ
The 103rd person

エリカ
【プロフィール】 本名：河口絵里香。「Ericatic Romantic Review」と冠したフリーペーパー及びイベントを企画・実行し、「Ericatic」な世界を主催する人。元はインディーズユニット「COCOTT」で3枚のCDを出したタレント。「好きこそモノの…」を地で行く独特の吸引力を武器に、特に古着世界には屈強なパイプを持つ。

エリカだわん！が通行証 パワー溢れるポップ世界



大抵の古着屋で目にかかれるフリーペーパー「Ericatic Romantic Review」。複数回の初めに発行。6月発行の号で、次回イベントの詳細発表



オフ白とボルドーとピンクのワンピ。古着にハマリ始めた頃の友達からのプレゼント。なんと昔は「シルスチュワート」などをまとう百貨店派だったらしい



昨年12月にAce Cafeで行われた「Ericatic Romantic Review Official Party Vol.2」の様相。次回Vol.3は6月か7月に開催予定

Information
オフィシャルサイト
<http://www.geocities.jp/ericatic2002>
フリーペーパーは市内古着店各所に
(本誌特集ページ参照)
今年中に「半日まるまる過ごせる」をコンセプトにしたヘアサロンをオープン予定

木屋町フィールドのリーダー的存在、「WORLD」と「Ace Cafe」。それぞれのハコで催した二度のイベントを、見事プリティガールズで満員御礼にしてしまった女のコがいる。特筆すべき後ろ盾もなくただ女のコが集まってキャイキャイ笑いまじり的なパーティーだったのだが、そのあまりに屈託のない華やかさは、まるで蜜蜂を引き寄せる花畑のように木屋町の夜を染めた。

それは従来の木屋町的裏概念(=男、名を売る、金儲〜かる)をジャラッと女子トイレに流してしまような偉業でもあったのだが、ともあれそれを語るためには、彼女のフリーペーパーを先述すべきかもしれない。全ての発端は、ericaがとにかくライブなパーティを演じたかったことにある。それでまずは布石を打つべく、極小サイズのフリベをちまちま作り、26インチのママチャリで京都の古着屋をせせと回り、どんな勤勉なワンちゃんも叶わないほどマーケティングに精を出したのである。なんとひたむきで等身大の情熱。さらに言えば、「なぜ古着屋？」との問いには本気で「いちばん好きだからだわん！」の答えが返るのも、またひたむきなところ。そんな解りやすさが人を動かし、半年後のイベント「Ericatic Romantic Review」を現実にしたのである。

ところでこのフリベ、デザインのサイケな面構えや彼女独自のテクニカルタム「…だわん！」が泓射されている文面。だから実は本人に会うまでは、オースティン・パワーズな世界を想像していた。だが実際に現れたのは、60sフレンチバリバリのブリジット・バルドー。聞けば古着世界に目覚めたのも、永遠のロリータBBや永遠の王女Aへパバーンへの憧れからという可愛いミーハーぶり。つまるところ、ハリウッド的な盛り上げ役の道化マイク・マイヤーズではなく、ポップでリリックな女のコ世界に誠実な具現者なのだ。かく濃密な世界を築き上げ、そして現在フリベを置く店はなんと130を軽く越えるという。彼女が頼もばんであれ、大抵の古着屋は首を縦に振るほどに強いパイプも生まれている。しかし驚くべきは、彼女が古着にハマったのがわずか4〜5年前という事実。「だからウィンテージ物の知識とかは全然知らないの」。ericaが気になるのは「きゃわいいんよて思えるものかどうか」、それだけだ。そのイメージを彼女は「Ericaticなもの」と呼ぶ。のめりこみやすく、好きになったら労力はいとわかない、脇目もふらない。「たぶん恋もそんな感じだわん！」聞くだにドキドキする、プライベート世界のビッグ・バンド。